

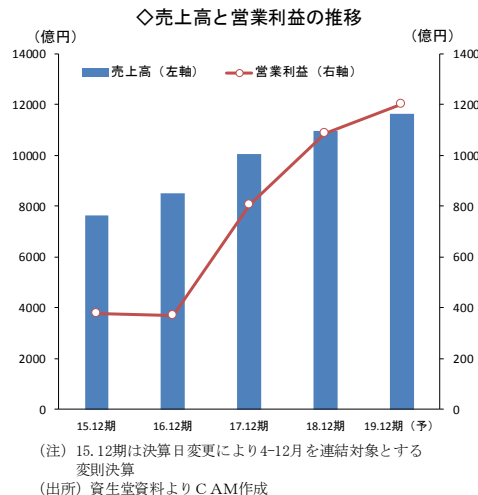
企業ニュース 資生堂

(東証1部 : 4911) <https://www.shiseidogroup.jp/>

作成者: 高見澤晶子

クロスボーダーマーケティングが奏功

大手化粧品メーカー。19. 12期・第2四半期累計(1-6月)のセグメント別売上高構成比は、日本41%、中国19%、アジアパシフィック7%、米州11%、欧州9%、トラベルリテール(機内販売や空港免税店など旅行者を対象とする販売)9%、プロフェッショナル1%、その他3%。中国の電子商取引法の施行でインバウンドに含まれるバイヤーの売上高が減少しているが、中国本土やトラベルリテールがその分をカバーするなど、これまでのクロスボーダーマーケティングの取り組みが奏功し、19. 12期も堅調な売上成長を続けている。また、欠品などの供給課題においても生産能力の改善がみられており、供給体制の強化が着実に進んでいると言えよう。



中国の旺盛な需要を取り込む

19. 12期・第2四半期累計(1-6月)の連結業績は、売上高が5,646億円、前年同期比6%増、営業利益が690億円、同3%減。営業利益に関して、会社は年間計画通りの進捗であるとコメントした。注力するプレステージ(高価格帯)ブランドが成長をけん引、特に中国本土での店頭売上高は同40%超の増と好調を維持した。利益面では、中長期での成長を見据えたマーケティングや研究開発、人材への投資強化を継続したため、対前年同期で減益となった。

19. 12期の通期会社計画は、売上高が1兆1,640億円、前期比6%増、営業利益が1,200億円、同11%増。米国子会社の会計基準の変更と為替影響を踏まえ、通期の売上高を従来計画比80億円減額したが、これらの影響を除いた実質ベースの売上高は同40億円増額となる。中国ではマーケティング投資強化を継続し、重点ブランドの好調維持を図る。また、アリババグループなどとのアライアンスを強化する。国内では消費税率引き上げの前後で新製品を投入し、大型のプロモーションを展開することで、駆け込み需要や新規顧客の取り込みを図る。

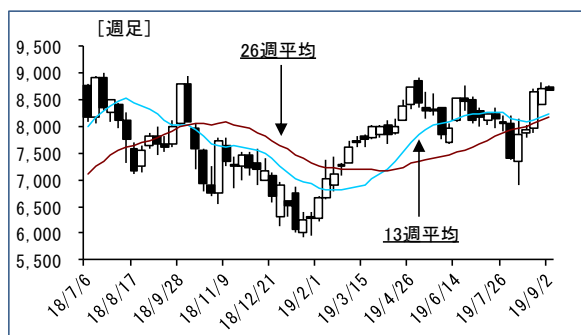
[株価動向・投資判断]

好調な上期決算を背景に、株価は上昇した。ボーダーレスな販売チャネルの構築やブランディングなどが寄与し、中長期での売上成長が期待できよう。

<4911 資生堂 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期利益 | 1株利益 | 1株配当 |
|----------|-----------------|---------------|---------------|----------------|-------|-------|
| | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 百万円 (伸び率) | 円 | 円 |
| 17. 12 | 1,005,062 (18) | 80,437 (119) | 80,327 (116) | 22,749 (▲ 29) | 57.0 | 27.50 |
| 18. 12 | 1,094,825 (9) | 108,350 (35) | 109,489 (36) | 61,403 (170) | 153.7 | 45.00 |
| 19. 12 予 | 1,164,000 (6) | 120,000 (11) | 116,000 (6) | 83,000 (35) | 207.8 | 60.00 |



| [主要株価指標] | (売買単位: 100株) |
|---------------------|------------------|
| 株価(2019/9/2) | 8,678 円 |
| 年初来高値(高値日) | 8,905 円(19/5/7) |
| 同 安値(安値日) | 5,922 円(19/1/16) |
| 予想 P E R (19. 12 予) | 41.8 倍 |
| 1株株主資本(PBR算出用) | 1,216.9 円 |
| P B R | 7.13 倍 |
| 予想配当利回り | 0.69 % |
| (1株当たり配当金年60.00円) | |
| R O E (18. 12) | 14.1 % |
| 発行済み株式数 | 40,000 万株 |